

| | | | |
|---------|---------|----------|----------|
| 国際関係論 | 1～3年・前期 | 2単位 | 教授 世喜 利彦 |
| 科目カテゴリー | 人としての教養 | 科目ナンバリング | 31120051 |

1. 授業のねらい・概要

諸外国の医療・看護の状況について、講義および自己学習を通して理解し、日本の医療・看護と比較検討する。また、海外研修先での講義や施設見学、医療・看護に携わる人々、地域や施設で生活する人々との交流を通して相互理解を深め、日本の医療・看護との相違点を考える機会とする。

2. 到達目標

1. 諸外国および研修先の国の医療・看護を理解する。
2. 研修先の医療および看護、福祉施設の現状を理解する。
3. 研修先の看護学部の授業を体験し、看護への興味を深めることができる。
4. 海外研修の体験を通して、日本の医療・看護の現状を考えることができる。

3. 授業の進め方

事前学習としては、文献等による諸外国の医療・看護の状況について学習し、研修先で学びたい項目を具体的に明確にする。また、海外研修では事前に研修先の人々との交流や施設見学について十分に準備し、海外研修に臨む。海外研修終了後は、学んだことを客観的にまとめる。

4. 授業計画

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1. これまでの海外看護研修について | 9. 海外研修（施設概要，研修 オリエンテーション） |
| 2. 諸外国の医療・看護システムの状況 | 10. 海外研修（看護大学見学，講義受講） |
| 3. 研修先の医療・看護システムの状況 | 11. 海外研修（医療施設見学） |
| 4. グループワーク（研修先の国と日本の比較） | 12. 海外研修（福祉施設見学・交流） |
| 5. グループワーク発表 | 13. 海外研修（地域施設見学・交流） |
| 6. 渡航手続き・見学・実習等の準備，説明 | 14. 海外研修（地域視察） |
| 7. コミュニケーション（日常英会話，マナー等） | 15. 研修報告の発表 |
| 8. コミュニケーション（国際親善等） | |

5. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況（積極性，発言等）10%，海外研修への参加状況10%，研修後のレポート70%，報告10%を総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

必要に応じて資料を配布する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

グループワークについては、授業時間以外に調査することがあり、グループメンバー同士で役割分担を話し合っ実施する。また、復習(1時間以上)は、その日のうちに行う。

8. 受講上の留意事項

不明な点，理解できない点があれば，遠慮しないで質問してください。受講者は海外研修に参加することを前提とする。早めにパスポートを取得すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

海外看護研修後の数日後に，全員，口頭による研修報告をし，そのレポートを提出し，その後，課題のねらいについては説明する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目であり修得できない場合には直接、進級不可にはなりません、必修単位と選択単位を合計して、卒業要件単位数を満たさなければなりません。